

## ◆故平山郁夫先生「お別れの会」 二六二〇名が別れを惜しむ



昨年十二月二日に七十九歳で死去された日本画家で本学の前身である平山郁夫先生の「お別れの会」が二月二日、東京都港区のホテルで執り行われ、三笠宮崇仁親王殿下をはじめ、美術界、政財官界人や各国大使ら約二六二〇名が参列した。

純白の花で彩られた祭壇には、遺影とともに平山先生が描いたシルクロード作品の太陽と月の部分を印刷した一双の屏風が置かれ、天皇皇后両陛下、皇太子・同妃両殿下、三笠宮殿下からの供花や文化勲章などが飾られた。

会の委員長を務めた松尾敏男（財）日本美術院理事長の弔辞に続いて、宮田亮平学長は、「偉大な先達を失ったことは、東京藝術大学のみならず、世界の文化芸術界に

ざつても大きな損失ではあるが、先生の教えは、幾多の卒業生、教職員の上に確実に受け継がれ実践されてゆくものと確信しています。」と弔辞を述べた。

続いて、鳩山由紀夫内閣総理大臣や胡錦濤中国国家主席、ニール・マクレーガー大英博物館館長の弔電が読み上げられ、世界の文化遺産保護に努めた平山先生のお人柄が偲ばれた。

その後、参列者献花に移り、故人との別れを惜しむ長列が続いた。

## 交流

### ◆大学間国際交流協定締結

六月二十三日、韓国傳統文化學校（韓国）と本学大学院美術研究科は、美術に関する交流を深めるとともに、教育及び研究に関する協力をを行うことに合意し、芸術国際交流協定を締結した。

七月九日、トリノ工科大学（イタリア）と本学は、芸術に関する交流を深めるとともに、教育及び研究に関する協力をを行うことに合意し、芸術国際交流協定を締結した。これらの調印により、本学における交流協定締結校は、十六か国（地域）、四十四大学等となった。

### ◆「日中芸術教育シンポジウム」を開催

十二月二十二日、北京の清華大学美術学院講堂において、「日中芸術教育シンポジウム」を開催した。

これは二〇〇七年、本学の創立一〇〇周年に際し、世界に向けて発信した「藝術語言」を契機としたもので、日本と中国の主要な八芸術大学の学長、院長が一堂に集い、芸術教育、両国の大学間交流や文化交流の発展を推進することについて話し合われた。

シンポジウムは、第一部の学長会議、第二部の教員会議、第三部の本学元留学生による演奏会からなり、会場を埋め尽くす熱心な学生に囲まれながら、各々の現状と発展について、公開で議論が行われた。

## 受章・受賞

### ◆萩岡松韻教授が「第二十九回伝統文化ポーラ賞優秀賞」を受賞

八月十日、音楽学部邦楽科の萩岡松韻教授が、山田流箏曲の演奏・作曲、さらには多くの子弟への指導育成など伝統文化への貢献が評価され、第二十九回伝統文化ポーラ賞優秀賞を受賞した。

### ◆村岡貢美男助教が「再興第九十四回院展奨励賞」を受賞

九月一日、美術学部絵画科日本画専攻の村岡貢美男助教の作品「煉獄の門」が、再興第九十四回院展において奨励賞を受賞した。

### ◆小椋範彦准教授が「第五十六回日本伝統工芸展東京都知事賞」を受賞

九月二十五日、美術学部工芸科漆芸専攻の小椋範彦准教授の作品「割貝時絵桜花文飾箱」が、第五十六回日本伝統工芸展において東京都知事賞を受賞した。

### ◆宮田亮平学長が第四十一回「日展」内閣総理大臣賞を受賞

十月三十日、宮田亮平学長の作品「シュプリンゲン」が、第四十一回日展（平成二十一年度）工芸美術部門において内閣総理大臣賞を受賞した。

### ◆伊藤有希教授が「The 6th China International Animation and Digital Arts Festival 2009 トキョウ カネコリー・特別栄誉賞」を受賞

十月二十八日、大学院映像研究科アニメーション専攻の伊藤有希教授が、「The 6th China International Animation and Digital Arts Festival 2009」において「テレビカネコリー・特別栄誉賞」を受賞した。

## 運営

### ◆平成二十一年度「芸術祭」を開催

九月四日から六日まで、「ArtEco」をテーマに「芸術祭」が開催された。

初日は美術学部・音楽学部の一年生が一夏かけて作り上げた八基の神輿が、サンパ隊を先頭に上野公園を練り歩いた。また学内では、三日間にわたって展示・演奏会・模擬店などさまざまなイベントが催され盛大な賑わいを見せた。

### ◆上野タウンアートミュージアム(TAM)

今年で三回目となる上野タウンアートミュージアム(TAM)が盛況のうちに開幕した。本プロジェクトは、本学と台東区が一体となり、区内各所の会場に作品を展示することで、街のミュージアム化を図るもの。

企画された八つのプロジェクトは、地域の中にある社会性、環境、歴史、市民とのコミュニケーションの関係性の中から新しい芸術の一つのあり方を示すと共に、町の中に芸術作品を仕掛け、ミュージアム化するという本学大学院教育の大きな試みでもある。

### ◆「藝大アーツイン東京丸の内」が盛況のうち閉幕

十月二十五日から七日間にわたり、丸ビルで開催されていた「藝大アーツイン東京丸の内」が一人を超える来場者を迎え、大盛況のうちに閉幕した。

本学と三菱地所株式会社が共同主催する「藝大アーツイン東京丸の内」は、本学の若い才能により、丸の内からさまざまな文化、芸術を発信していくイベントとなっている。



## 出版会活動

### ◆DVD「大学院映像研究科第三期生修了作品集二〇〇九」を十月十五日より発売



二〇〇九年三月に修了した映画専攻第三期生。短篇、長篇と数々の制作実習を重ねてきた学生たちが、その集大成として取り組んだ修了制作全五作品を、今年もDVDとして発売。

収録されるのは、第二十八回バンクーバー国際映画祭のドラゴン&タイガー部門に正式出品したほか、ロッテルダム国際映画祭から招待を受けた「イエローキッド」（真利子哲也監督）をはじめ、今後の活躍が期待される監督たちの作品群である。

### ◆「六角紫水の古社寺調査日記」を十二月二十五日より発売

東京美術学校（本学の前身）第一回卒業生で近代漆芸の大家となった六角紫水が、若き日に岡倉天心のもとで古社寺保存会の宝物調査のため各地を旅行したときの日記。明治三十五年、六年に近畿、山陰、東北、関東地方の古社寺を巡歴したとき記したもので、宝物調査の様子を如実に窺うことのできる稀有な記録資料である。

本書はそれらの日記の全部と紫水が書き残した宝物調査の回想記、解説、紫水年譜からなる。美術関係者のみならず一般にも広く読んでいただきたい本である。



東京美術大学出版会の出版物等は、本学藝大アートプラザ、アマゾン（ネット販売）および一般書店にて取り扱っております。詳しくは、藝大アートプラザ（〇五〇一五五二二二〇）まで。

三年目となる今年は、オープニングセ



現在年2回(3月と9月)発行されている藝大通信も20号を迎え、より“旬の藝大”を発信しようとしてリニューアルを行いました。創刊当時(平成13年)と比べ、社会に開かれた大学を目指す中で本学もずいぶん変わり、その空気を感じとってもらえる誌面づくりを目指した次第です。例えばこれまであまり外部発信されていない、学生の日々の研究活動を紹介していくことも重要な役割。また社会との結びつきを深める中、大学内の事だけでなく上野の山の境界の楽しい、知られざる情報も同時にお届けできればと思います。

ただ、時代は変わろうと藝大は何と言っても「人」が根幹、それは変わりません。表紙のデザインは様々な作品(図)の前に、それを生み育てた人(地)にスポットを当てていこうというのが狙いです。生まれ変わった藝大通信をこれからもどうぞ宜しくお願いいたします。

藝大通信編集長  
長濱 雅彦

展覧会・演奏会の最新情報は、東京藝術大学公式 Web サイト (<http://www.geidai.ac.jp/>) をご覧ください。

- 展覧会についてのお問い合わせ  
東京藝術大学大学美術館  
Tel. 050-5525-2200  
NTT ハローダイヤル  
Tel. 050-5777-8600
- 演奏会についてのお問い合わせ  
東京藝術大学音楽学部演奏企画室  
Tel. 050-5525-2300
- 演奏会チケットの取り扱い  
藝大アートプラザ  
Tel. 050-5525-2102  
ヴォートル・チケットセンター  
Tel. 03-5355-1280  
チケットびあ  
Tel. 0570-02-0990  
東京文化会館チケットサービス  
Tel. 03-5815-5452
- 藝大アートプラザのご案内  
Tel. 050-5525-2102  
Fax 050-5525-2486



◆学長と語る①  
奏楽堂トーク&コンサート  
十一月十四日、第六回「学長と語る」奏楽堂トーク&コンサートが、ゲストに水中写真家として著名な中村征夫氏を招いて開催された。

◆藝大 理研 連携協力記念シンポジウム  
「未来を拓く〜科学と芸術の交差点〜」を  
開催  
本学と理化学研究所による連携協力記念シンポジウム「未来を拓く〜科学と芸術の交差点〜」が十一月十五日、奏楽堂にて開催された。

◆第四回 藝大アートプラザ大賞  
入賞作品展  
十一月二十五日から十二月二十日まで、第四回「藝大アートプラザ大賞作品展」(作品テーマは「地球」)が藝大アートプラザにて開催された。これは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため平成十八年度から実施している学内アートコンペ



◆映画専攻第三期生修了制作  
『イエローキッド』快進撃  
映画専攻第三期生が手掛けた修了制作の一本『イエローキッド』(真利子哲也監督)が、一月三十日の東京公開を皮切りに全国ロードショーをスタート。これは、全国独立系映画館主のネットワークである「シネマ・シンジケート」が、今年、最も将来を期待される新人監督作品として、同作を選出したことによるもので、映画専攻の修了制作作品が全国の劇場で一般公開されるのは、これが初となる。国内のみならず、昨年のバンクーバー国際映画祭、一月のロッテルダム国際映画祭、さらに三月以降も各国の映画祭への出品が続くなど、海外からも熱い視線が注がれている。

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

レモニーを皮切りに、大吊り幕によるマルキユーブ空間演出、宮田学長によるトークショー、藝大神輿の展示、三菱地所賞二〇〇九受賞者アート展及びリサイクルに加えて、「国際交流」と「オペラ」をテーマとした留学生による民族楽器演奏会、オペラ研究部によるオペラハイライト、さらにはピアノ専攻学生のスタインウェイピアノによる演奏や特別講演会など、連日、多彩なプログラム(展示や演奏会等)を展開し、丸ビルにご来場のお客様を魅了した。来年は十月二十六日から十月三十一日まで開催を予定している。

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名



◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名

◆今年度下半期に開催された  
主な展覧会、演奏会記録  
《大学美術館》  
異界の風景  
—東京藝大油画科の現在と美術資料—  
会期 十月二日〜十一月二十三日  
入場者数 二万三〇三名  
退任記念展  
絹谷幸二 生命の軌跡  
ars vita esta・vita ars esta  
会期 一月五日〜十九日  
入場者数 八二二名  
《奏楽堂》  
藝大オペラ定期 第五十五回「イドメネオ」  
開催日 十月十日、十月十一日  
入場者数 八七四名、七七五名  
邦楽定期演奏会 第七十六回  
開催日 十一月一日  
入場者数 七八一名